

日本NGO連携無償資金協力  
「ムザファルガール県生計向上及び水・衛生環境改善事業」

① 生計向上のための作物栽培



事業開始にあたり、現地スタッフ、現地提携団体のボランティア指導の下で実施された住民間の話し合い  
(3月、Ultra村)



作物栽培対象世帯の実態調査を行う現地提携団体のボランティア  
(5月、Chan Wala村)



ファイサラバード農業大学副学長と農学部部長と高収益作物栽培について協議する現地事業責任者と現地スタッフ  
(5月、ファイサラバード農業大学)



運営委員会メンバーに委員会設立の目的や運営方法について説明する現地スタッフ  
(6月、Ultra村)



タマネギ種子とニンニクの球根、遮光ネットの対象農家への配布  
(6月、Ultra村)



遮光ネットの使用方法について指導する現地提携団体のボランティア  
(6月、Ultra村)



対象農家に対して遮光ネットの使用方法を説明する現地スタッフ

(6月、Ultra村)



タマネギ、ニンニクの栽培状況をモニタリングする現地提携団体のボランティア

(6月、Ultra村)



生活用水が流れる水路を活用した対象農家によるタマネギ栽培

(6月、Chan wala村)



タマネギ、ニンニク栽培のモニタリング後、タマネギの苗床に集中したミミズ被害について対象農家より報告を受ける現地提携団体のボランティア

(7月、Chan wala村)



ゴマの種子配布前に、現地提携団体のボランティアから栽培方法の説明を受ける対象農家

(7月、Chan Wala村)



ゴマの種子を受け取る対象農家

(7月、Chan Wala村)



ゴマの種子配布後、モニタリングを行う現地スタッフと現地提携団体のボランティア  
(7月、Ultra村)



提携団体のボランティアからレモングラス栽培方法について説明を受ける対象農家  
(7月、Ultra村)



レモングラスの苗木配布前に、事前に配布した引換券と対象者の身元を照合する現地提携団体のボランティア (7月、Ultra村)



レモングラスの苗木を受け取る対象農家  
(7月、Chan Wala村)



ガジィ・ガート郡近隣に住むレモングラス栽培農民からレモングラスの栽培方法について指導を受ける対象農家  
(7月、Ultra村)



対象世帯の栽培状況をモニタリングする現地事業責任者、現地スタッフと現地提携団体のボランティア  
(7月、Ultra村)



石鹼製造会社のプロダクト管理マネージャーから石鹼の製作過程について講義を受ける現地スタッフと現地提携団体のボランティア  
(7月、NICCO パキスタン事務所)



石鹼製造工程責任者から石鹼製造の指導を受ける現地スタッフと現地提携団体のボランティア  
(7月、NICCO パキスタン事務所)



レモングラス生育についてのモニタリングを実施する当会現地スタッフと提携団体ボランティア (8月、Ultra 村)



綿花の近くでゴマを栽培している参加者野中には、綿花に見られる害虫がゴマにも影響しているとの声があった。(9月、Chan Wala 村)



生計向上のための作物栽培運営委員会リーダーも参加して実施された石けん作り講習会  
(9月、当会現地事務所)



生計向上のための作物栽培運営委員会リーダーも参加して実施された石けん作り講習会  
(※写真右から2番目が現地事業責任者)  
(9月、当会現地事務所)



生計向上のための作物栽培運営委員会及びプログラム参加者に向けて実施した石けん作り講習会（9月、Chan Wala 村）



石鹸作り講習会の参加者の中には熱心に記録を取ったり、録音する参加者もいた。（9月、Chan Wala 村）



ファイサラバード農業大学の教授によるモリンガに関する講習会を実施。（10月、Utra 村）



モリンガ講習会に参加した参加者は熱心にメモを取ったり、講義を録音する参加者もいた。（10月、Chan Wala 村）



綿花につく害虫による影響もなくゴマは順調に生育した。（10月、Chan Wala 村）



提携団体代表によるタマネギ栽培のモニタリング（11月、Chan Wala 村）



冬野菜栽培の圃場手入れをする女性たち。野菜栽培には、多くの女性が参加する姿が見られた。  
(12月、Chan Wala 村)



レモングラスのモニタリング。簡単に増殖ができるレモングラスの利点を利用し、積極的に増殖を行う農民が見られた。(12月、Chan Wala 村)

## ②モデルとなる水質浄化施設の建設



Bahauddin-Zakariya 大学理学部化学科のアンサリ博士、現地事業責任者と現地スタッフ  
(5月、Bahauddin-Zakariya 大学)



事業地井戸のサンプル水を採取する現地スタッフと現地提携団体のボランティア  
(7月、Chan wala 村)



水質検査手順について協議する現地スタッフと現地提携団体のボランティア  
(7月、NICCO パキスタン事務所)



高濃度ヒ素が検出される事業地井戸より採取した水質検査用のサンプル水  
(7月、NICCO パキスタン事務所)



水質浄化施設の建設候補地についての話し合い。運営委員会及びプログラム参加者に対して説明が行われた。(8月、Chan Wala村)



水質検査を実施する現地水質専門家。(9月、Utra村)



井戸水に含まれるヒ素濃度を検査する現地水質専門家。(10月、NICCOパキスタン事務所)



酸化還元電位系 (ORP メーター) の使い方について指導を受ける現地水質専門家。(10月、NICCOパキスタン事務所)



水質検査機材を村に持ち運び、水質検査の準備をする現地水質専門家(写真中央)。(10月、Utra村)



水サンプルを採取する現地水質専門家。(10月、Chan Wala村)



水質浄化施設の設計について説明をする日本人専門家（水・衛生）（写真奥中央）。（10月、NICCO パキスタン事務所）



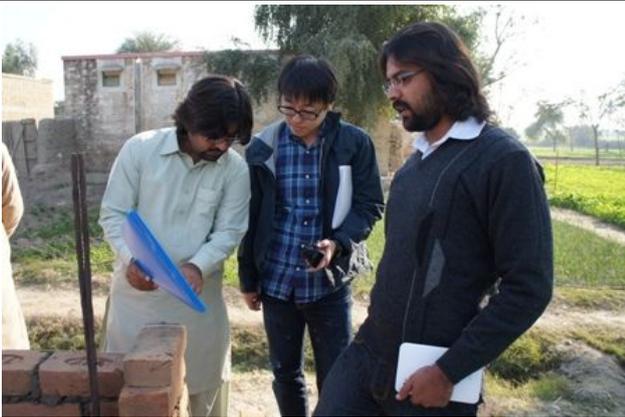
クーラーボックスに鉄板を漬け込み、ヒ素の除去を確かめる現地水質専門家。（10月、NICCO パキスタン事務所）



時間の経過ごとにヒ素濃度の変化を確認する現地水質専門家アシスタント（10月、NICCO パキスタン事務所）



水質浄化施設の土台から壁を積み上げる作業工程を確認する当会現地事業統括（写真右から3番目）と現地スタッフ。（12月、Chan Wala 村）



建設工事について話し合う本部事業担当者（写真中央）と現地スタッフ。（12月、Chan Wala 村）



建設工事の精密度について確認を行う本部事業担当者。（12月、Chan Wala 村）



タンク内部の高さを確認する当会現地統括（写真中央）と現地スタッフ（12月、Chan Wala 村）



水質浄水施設の工事について打合せをする現地事業責任者と現地エンジニア（12月、Chan Wala 村）



設計に基づきパイプの高さを変更する当会職員（写真右）と現地スタッフ。（12月、Chan Wala 村）



浄水施設内の水の流れを確認する現地スタッフと現地エンジニア。（1月、Chan Wala 村）